

1. ねらい

- (1) 海外に展開する広島大学の連携協定大学（例えば、カイロ大学、ダルマプルサダ大学、ウィーン大学等）において、広島大学として提供する「平和科目」の授業モジュールを開発できる。
- (2) 開発した授業を、現地の連携協定大学において授業と協働して実践、分析、改善していくための方法論を習得し、活用できる（我が国における Design Based Research の受容と実践を批判的に批評できる）。

2. スケジュール

第1講（4月14日）

- ・オリエンテーション、発表分担の調整、決定
- ・コースパケットの作成

導入：開発的・実践的研究の方法論のレビュー

第2講（4月21日）...（A）（B）

- ・教育改善と研究実績の両立を目指して：デザイン研究論文を書こう
- ・学習デザインの改善と学習の深化を目指したデザイン研究アプローチを用いた実践

第3講（4月28日）...（C）（D）

- ・数学教育における「パターンの科学の数学」・「デザイン科学としての数学教育学」の意義
- ・教師の学習観の変化：教師の資質向上の新しい可能性

第4講（5月12日）...（E）（F）

- ・教育実践の改善サイクルから教育実践研究のパターンへ
- ・アクティブトランジション（三省堂）

展開1：教育目標と教育方法の検討—なぜ平和なのか

第5講（5月19日）...（A）（B）

- ・紛争解決教育の思想と方法 —peer mediation や conflict resolution（橋本，坂出ほか）
- ・安全保障教育の思想と方法 —choice program や conflict in context（長田，池野ほか）
- ・開発教育の思想と方法 —world studies や global education（木村ほか）

第6講（5月26日）...（C）（D）

- ・社会的結束教育の思想と方法 —social cohesion（坪田ほか）
- ・人権・公民教育の思想と方法 —human Rights や civic education（中井ほか）

第7講（6月2日）...（E）（F）

- ・文化間教育の思想と方法 —BaFa BaFa, cross-cultural（藤原ほか）
- ・複言語教育の思想と方法 —plurilingualism や plural identities（柳瀬，池野ほか）

第8講 (6月9日) ... M2

- ・ C3 フレームワークに基づく授業の論文化
- ・ Teaching the College, Career, and Civic Life (C3) Framework: Exploring Inquiry-Based Instruction in Social Studies の検討

展開2: 教育内容・方法の検討—平和をいかに教えるか

第9講 (6月16日) ... (A) (B) (C)

- ・ 「平和とは何か?」「平和が実現した状態, 平和が失われた状態」
- ・ 目標から見た多様な平和の定義
- ・ 定義に関する平和学, 政治学, 国際関係学, 社会学, 心理学等の理論と事例
- ・ メディア (web, 政策, 漫画・アニメ, 新聞, 小説, 教科書等) で流布している言説

第10講 (6月23日) ... (D) (E) (F)

- ・ 「平和を拒むもの」「平和を生み出すもの」
- ・ 目標から見た多様な平和の阻害・促進条件
- ・ 阻害・促進条件に関する平和学, 政治学, 国際関係学, 社会学, 心理等の理論と事例
- ・ メディア (web, 政策, 漫画・アニメ, 新聞, 小説, 教科書等) で流布している言説

展開3: 教育目標・内容・方法の授業化

第11講 (6月30日) ... (A) (B)

第12講 (7月7日) ... (C) (D)

第13講 (7月21日) ... (E) (F)

- ・ 6つのモジュールは, それぞれ異なるテーマを扱うこと。目標・内容・方法に違いを持たせたい (連続的な取扱いと単独での取扱い, 双方に対応できる)。
- ・ 各モジュールの目標と理論的な枠組み, 学習過程, 評価規準, 参考文献等は, A4 で2枚程度の紙媒体 (日本語) に集約して記載すること。
- ・ 各モジュールの教材は, パワーポイント (英語) で作成すること。学習活動の指示や YouTube 映像などもスライドの中に組み込む。フォーマットは統一する。
- ・ ハンドアウトやワークシートを用意しても構わない。ただし, 最小限とする
- ・ 題材には, 必ずヒロシマの事例を取り上げること。学習過程でヒロシマの事例を世界各地の様々な文脈に拡張していく機会を設けること。
- ・ 学習指導は, 言語のみに依存しないこと, PBL または IBL を原則とする。
- ・ 1モジュール 90分×2での指導を想定すること。予習課題や発展課題も用意する。
- ・ 社会科学を専門としない教員と学生, あるいは英語を得意としない (母語としない) 教員と学生が使う状況を想定する。

第14講 (7月28日) ... (A) (B) (C)

第15講 (8月4日) ... (D) (E) (F)

- ・ 修正版を発表する
- ・ 後期は, 各モジュールの実践的な改善を試みる。

3. 展開部の準備と発表

- 発表の1週間前までに、指定された **google drive** に関する論文や文献を保存しておくこと。出典を記載することを忘れない。
- 「導入」では、指定された論文を内在的に読み解き、立論の意図・構造と主張、周辺の研究動向を再構成するとともに、本研究への示唆を引き出すこと。
- 「展開1」では、指定された概念について論文 **2-3** 本を取り上げて解説するとともに、**2** つの概念の関係性を説明すること。
- 「展開2」では、指定された課題について **5** つ程度の（代表的な）立場の見解や資料を紹介するとともに、それらの関係性を説明すること。
- 「展開3」では、モジュール別に異なるテーマを設定するとともに、カリキュラム全体に置ける位置づけを説明すること。
- 発表の長さは、各講 **60** 分とする（導入は一人 **30** 分、展開1は一人 **30** 分、展開2は一人 **20** 分を目安とする）。残り **30** 分は議論や質疑にあてることができるようにご配慮ください。
- 「見て読んで分かるレジュメ」を作ることも大事な課題の一部です。積極的に発表内容のモデル化や図式化・図像化を試みてください。文字だけにしないよう。
- **1-2** ターム（第 **10** 講まで）は「紙媒体」での発表、**3-4** タームは「デジタル媒体」での発表を原則とする。先輩の発表資料も参考にしてほしい。

4. 発表が終わったら

- 質疑と指導の内容を踏まえて、修正したレジュメのデータを草原に送付する。
- 送付は発表後 **2** 週間を目安とする。特段の事情がない限り **1** か月以上遅れないこと。
- 資料は、草原の修正・点検を経たのち、研究成果としてウェブ上に公開する。

5. 評価の観点

- 発表内容の完成度（論理性、実証性、斬新性など） ... **60%**
- 議論へのコミットメント（質問、助言、論点整理など） ... **20%**
- プレゼンテーションの技術（レジュメの表現力、説得力など） ... **20%**

なお、授業での議論をより豊かなものにするためには、「予習」は不可欠である。

6. 連絡先

- 研究室： **A404** 草原研究室，TEL&FAX：082-424-6800
- 電子メール： kusahara@hiroshima-u.ac.jp
- ホームページ： <http://home.hirosima-u.ac.jp/kusahara/kusalab/>

大学院の授業とは何か…

1つの「プロジェクト」に従事し、完遂することで、

① Teacher として:

自分が、社会科をより高次に教えることのできるための「授業の開発・省察・改善の能力」
(プロフェッション)

② Teacher Educator として:

他者が、社会科をより高次に教えることができるようにするための「教師教育の能力」
(メンターシップ, リーダーシップ)

③ Education Researcher として:

社会科を研究するための「理論」と「方法論」、他者と議論し、論文を発表・出版するための「性向」と「作法」(アカデミック・ライティング&プレゼンテーション)

これらを同時に育成することを目指します。

◎ すなわち、教社大学院の使命は、①教師、②教師教育者、③教育研究者、を三位一体的に育成するところにあります。

- ・「教育方法学特講」は、主に③に焦点化して、
- ・「実践的展開と検証」は、主に①に焦点化して、
- ・学部授業「TA」及び「教職授業プラクティカム」は、主に②に焦点化して指導します。

◎ お願い

5月20日(土) 9:00-17:00, 広島市内において広島創生イノベーションスクール「サマー
スクール」の予行練習を行います。世界各国の高校生を対象にした平和教育 PBL です。
生徒役として 15名ほど協力をお願いします。言語は、基本的に英語です。交通費・日当は、
支給の予定です。